

テツ 前は、がんばらなきゃいけないのにがんばれないときはどうしたらいいかについて考えていたね。

レイ それで、好きなことはがんばれるのはわかるけど、好きじゃなくてもがんばれる場合もあるよ、っていう話で終わったのよね。

ユイ それ、知りたい。早く教えて！

テツ ひとつは、そのこと自体が、たとえば部活そのものがそれほど好きじゃなくても、「苦しいけどがんばっている自分が好き」、という場合。そして、がんばっていることで誰かがほめてくれることを強く期待している場合。

レイ 私、そういうところあるかもしれない。

ユイ どっち？

レイ 両方、かな。

ユイ ふ〜ん。そういうのって、大変じゃない？

レイ う〜ん、そんなでもないかな。でも、一生懸命がんばってもほめてもらえなかったときはちょっと落ち込んだりするかな。

ユイ ユイはそういう感じではがんばれそうもないな。何か他にはないの？

テツ あります。それが自分にとってすごく大切なものである時。

ユイ 確かにありそう。でも、「大切なもの」と「好きなもの」って、結構一緒だったりするんじゃないの？

テツ そういうところはあるね。でも、たとえば、将来なりたいものがあるって、それになるためには、〇〇大学の〇〇学部に入るのが一番いい、でも、入試のための受験勉強は好きじゃない、みたいなことはよくあるんじゃないかな。

レイ 私のお兄ちゃんの友だちで、そういう人いた。勉強好きじゃなかったけど、何かのきっかけで絶対医者になりたいと思うようになって、それからものすごく勉強するようになったって。

ユイ そうかあ。じゃあ、結局、すごく好きなものかすごく大切なものがなきゃがんばれないのか。

テツ うん、そうだね。でも、むしろ逆みたいなのがあると思うんだよ。

ユイ 「逆」って？

テツ いろんなことをがんばってみて、がんばれるかどうかで、自分がそれが好きかどうか、自分にとって大切なものかどうかわかる、ということ。

レイ あ、それ、わかる気がする。一生懸命何かやってて、疲れてきてももっともっとやっていたくて、大変なんだけど心地いいみたいなものと、はじめの内は楽しくても、その内疲れてきたらもうや〜めた、ってなっちゃうやつとがあるのよね。前の方が、私が本当に好きで、大事にするといいものなのね、きっと。

ユイ そうか。自分では「好き」と思っている、実はそれほどでもないものはがんばれないんだね。

テツ 村上龍が、小説の中で、「ていねいにかかわることができるかできないか」みたいな言い方をしてたけど、似たようなことかなと思うんだよね。「ていねいにかかわれなかったから、自分には向いてないんだろうと思った」みたいに。

自分が本当に好きなもの、喜びを感じることができるものを見つけることは、生きていく上でとっても大切なことだと思うんだよね。そう考えると、いろんなものに深くかかわったり、熱心に取り組んでみたりするのも悪くないんじゃないかな、って思います。

レイ 「がんばる」って言うと、「ちょっと無理してる」みたいなニュアンスを感じちゃうけど、「深くかかわってみる」っていいかもしれないわね。



